

～今ご紹介する川田七香さんは去年1月に夫のティアゴさんと入会されました。川田さんは2010年からオーストラリアに滞在し、2017年に永住権を取得、2019年に帰国され、現在、熊野町で夫のティアゴさんと3歳になる娘のゆいカティアちゃんと暮らしています。～

幼少時からずっと海外に住むのが夢でした。大学の専攻は英語英米文学科で、カナダへの交換留学を1年し、卒業後、英語の活かせるロボット開発会社・ウィストン（大阪）に就職しました。その後、転職した留学幹事会社でシドニー支店勤務を経て、パースでバックパッカーの受け、印刷工場で作製、日系企業の経理の仕事をしました。ビザが切れ帰国しましたが、オーストラリアへの思いが強まり永住を目指すことに。約4年間、東京にあるイギリスの会社に経理の仕事に就き、ようやく2010年に再びオーストラリアへ。プリブンの大学院で会計学を学び、卒業後ちょうど、前職のイギリスの会社の上司からの連絡でシドニー支店の経理に空きがあることを知り就職しました。夫（ティアゴ）に出会ったのは入社してからすぐの事でした。夫は私の同僚の兄で、家族ぐるみで出かけるようになり、出会って1年で結婚しました。ちなみに夫はポルトガル出身で、7歳の時、オーストラリアに両親と移住しています。



オーストラリアの結婚は、セレブラントの立会の下で結婚証明書を書き成立します。結婚式は、川の近くの丘の上の木の下ですることになりました。2017年に娘が生まれ、赤ちゃんと育てるパパーマのサポートグループのセッションに3か月間参加し、ママ・パパ友ができました。シドニーには赤ちゃんと参加する無料のプートキャンプやピラティスのクラスが存続します。日本人が開催している日本の絵本を読む会なども様々なサポートもあります。また、夫が思いっきり走れる公園やビーチがたくさんあり、大と入れるカフェ・レストランもたくさんあります。

なぜそのような生活をやめて日本に帰国したのかと思われるかもしれませんが、夫は日本好き、娘は半分日本人であり、日本での暮らしを経験してほしい、将来後悔するよりは今実行して、うまくいかなければ帰れるという思いで帰国を決めました。私は帰国前に転職活動をして、現職の英語・経理の経験を活かせる外資系のフィナンシャルの仕事で内定をもらいました。夫は日本語が全くできないので、今までのスキルを活かせませんが、運よく学校のALT（外国語指導助手）の仕事が決まりエンジニアリングよりも、娘も元気にすくすく育ててお友達もできました。熊野町はとても環境がよく、子育てサポートもとても充実しています。



お悔やみ
申し上げます

個人会員 宮本義洋氏 2019年11月ご逝去 74歳
個人会員 羽井裕三郎氏 2020年7月ご逝去 98歳

編集後記

平年から引き継ぎました大原です。オーストラリアに17年間に、ケアンズ、ゴールドコーストと気ままな一人旅をしたのですが、豊かな自然と人柄の良さに好印象を持しました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた会合が閉ざり、皆様にご迷惑をおかけしております。先が見通せない状況ではありますが、当協会の発展に努めてさせていただきます。何卒、よろしくお願いたします。 大原 浩

(広島日豪協会 大原 浩)

オーストラリアの最新情報
集集中!

日本の交流に関するニュース、オーストラリアへの旅行記などを募集しています。身近な情報をお寄せください。

会報ひろしま日豪協会

発行日 2021年2月

発行所 広島日豪協会

〒734-8585 広島市南区広田2-3-19 朝テレビ広島島 総務部内
☎082-256-2200 FAX 082-253-1203 E-mail nichigo@tsv-tv.co.jp

会報

No. 45

2021年2月

ひろしま 日豪協会



HIROSHIMA JAPAN AUSTRALIA SOCIETY

新年
ご挨拶

交流再開を祈念して

広島日豪協会会長 永野正雄

明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとりまして、良い年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染問題が発生、この対応に追われ、年初後も感染が拡大しています。当協会も7月に開催の定時総会を書面審議し、1月に開催したオーストラリアデー以降は、諸行事を中止せざるを得なくなりました。

このような厳しい状況でしたが、日豪関係は良好に推移しています。主な出来事を振り返ってみると、一昨年末から昨年にかけてオーストラリアでは大規模な森林火災が発生、その規模はポルトガルの国土を上回る97,000Km²に及んだそうで、この森林火災は、地球温暖化のなかで、この地球の未来を予告しているのではとも言われています。

日本では、9月16日に菅政権が誕生、9月20日には日豪首脳電話会談が行われましたが、コロナ禍の中を11月17日から2日間オーストラリアのモリソン首相が訪日されました。

菅総理大臣は国内で初の首脳会談を行い、モリソン首相と新型コロナウイルス対策やウイルスの影響で制限されている両国間の往來の再開について意見交換するとともに、経済や安全保障の分野を中心に協働し、両国は連携強化を確認しました。

12月6日には、私たちのロマンを掻き立てた探査機「はやぶさ2」号が、小惑星「リュウグウ」で採取した岩石などを収納したカプセルを、前回と同様南オーストラリア州中部のウメツ砂漠に無事着地させ回収しました。宇宙開発でも日豪は、しっかりと協力関係を築いていることがよく分かります。

11月から12月末にかけて日豪の大使人事が発令されました。リチャード・フェアファックス・コート駐日豪大使が帰国し、ジャン・エリザベス・アダムズ駐日豪大使が発令されました。

日本側は、高橋礼一郎駐豪大使が帰国し、山上信吾駐豪大使が発令されました。また、4年間にわたり、オーストラリアと日本両国の友好親善にご尽力頂いたデイビッド・ロウソン駐大阪オーストラリア総領事が任期を終えてご帰国されることになりました。

そこで当協会では、急遽12月7日にささやかな送別会を開催しようとして準備していましたが、急激なコロナ感染拡大のため残念ながら開催を断念しました。

改めて、ロウソン総領事に感謝と御礼の意を表し、今後のご活躍をお祈りしたいと思います。どうか帰国されても、9,000kmの海の間には、ロウソン総領事を慕っている広島はもとより多くの日本人がいる事を忘れてないで欲しいと思います。

後任には、2016年から2019年まで在日オーストラリア大使館で資源・産業部部長を務められた、トレバナー・ホロウェイ氏がご就任されました。そこで共和党のロンブ大統領から民主党のバイデン大統領になり、新しい時代が始まりました。本年は、日本でもコロナ感染問題を早く収束させ、これまで以上に普通の日常生活が出来ること、広島日豪協会の行事も再開できることを切望しています。



離任

デイビッド・ローソン 前 駐大阪オーストラリア総領事 メッセージ



広島日豪協会の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。そして、この2021年、日本が国際社会を盛り上げていく年となることを確信しております。

早いもので、大阪のオーストラリア総領事に着任してから4年という月日が経ち、昨年12月28日をもって、無事任期を終えることができました。在任中は大変お世話になり、改めて心より、深く御礼申し上げます。

初めて西日本に住むことができた喜びはとも大きく、長年望んでいた夢が叶いました。広島をはじめ西日本の方々は、皆表現や表情が豊かて心がよく伝わってきますので、楽しい交流の思い出を作ることができました。

皆様ご存じのとおり、現在オーストラリアと日本は両国の首相が変わっても、政治、経済および安全保障の観点からも、かつてないほど緊密な関係になり、市民レベルでもここ4年の間に日豪関係への関心が高まってきているように思います。これもひとえに広島日豪協会の永野会長と会員の皆様の熱意と心強いサポートの賜物と感謝しております。今後もあらゆる面で、日豪の関係はますます拡大していき、より一層両国が支え合う時代になっていくと思います。

まだやり残したことがたくさんあり、4年という期間はありませんにも短すぎずと思うばかりですが、皆様とのおつき合いを通過して、少しでもオーストラリアとの関係が新たに築かれ、またオーストラリアを身近に感じていただけたのであれば幸いです。

帰国後はシドニーを拠点とし、引き続き貿易投資促進の業務に就きます。任期中の楽しかった広島日豪協会イベントの思い出を荷物と一緒に持ち帰り、今後も大切にしたいと思います。

今後一日も早くまた国境が開き、両国の観光客が双方方向に自由に旅行ができるようになった晩には、ぜひシドニーにお立ち寄りください。皆様との再会を心より楽しみにしております。

2021年が会員および皆様のご家族の皆様にとって健康で、幸せに満ちた発展の年となりますよう、シドニーよりお祈りしております。



新任

トレバー・ホロウェイ 新 駐大阪オーストラリア総領事 略歴

～デイビッド・ローソンの後任のトレバー・ホロウェイ氏の略歴をご紹介します。～

- 1990年 初来日。神奈川川崎市で、JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）による国際交流員として2年間従事。
- 2002年 北京の在中国オーストラリア大使館に9年間在籍し、経済課参事官等歴任後、外務省貿易中国経済貿易課長。
- 2014年 オーストラリア外務貿易省日本課課長。政治・戦略・経済問題を含む日関係全分野の責任者を務める。
- 2016年 在日オーストラリア大使館の資源・産業部部長。資源・エネルギーイノベーション・宇宙等の日豪関係を担当。
- 2020年12月末 駐大阪オーストラリア総領事に着任。



NAATI（オーストラリア政府通訳翻訳機関）の日本語翻訳の有資格者であり、東日本大震災での国際地域社会サービスへの貢献が認められ、2013年にオーストラリア勲章メダルを受賞。ゴルフやチェスなどを楽しみ、家族は妻、娘一人と息子一人。

REPORT

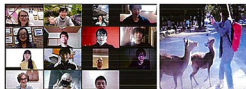
オーストラリアで思うこと

「オーストラリアで思うこと」をテーマに、オーストラリア大学講師・ジャパンセンター会長 マクランデン子

大晦日の夜、シドニー湾では恒例のニューイヤークロウダー花火が豪快に打ち上げられた。夜空に打ち上げられ、空一杯に飛び回る花火の美しさ。新型コロナウイルスの影響で、今年は自宅のテレビで見たシドニー湾の花火。観客なしの花火大会での夜空の美しいスパークリングは、東京オリンピックが観客なしでも実現できたら、という思いが重なる。

2020年2月中旬、コロナ騒ぎで、横浜港での海上、ダイヤモンドプリンセス客船が始まった。同じ頃、シドニー湾にルビープリンセスという大型客船が入港。船側がシドニー湾の入国管理所に、客船にコロナ患者はいないという虚偽の報告をして、全員を上陸させたことから始まったオーストラリアでの新型コロナウイルス騒ぎ。この重大な不祥事にオーストラリア政府が心を引き締め、即刻、許可がはいと州を越えて移動できない厳しい政策を存続実施したお陰で、12月下旬には、オーストラリア全体で新出コロナ患者がほぼゼロに近づいた。ところが、年末の海外帰国者から、シドニーなどの都会に少数のクラスターが出て一部地域の隔離が再び始まった。よって、このシドニーの新年の花火も観客なしで行われた。

多くの大学学舎が閉鎖される中、日本の大学からのズームミーティング交流の希望を受け、学生やコスハーバーの豪日協会の会長のマーガレットさんなど日豪友好の友人の協力を得て、毎週、開催している。奈良の大学から紅葉の美しい奈良公園などのパナチル観光、オーストラリアの学生の自宅の農場の紹介、ピアノ演奏など、普通の学生生活ができなかった学生達とも思いもよらぬ楽しい時間を共に過ごせた。



昨年、快挙だったのは、日本の「はやぶさ2」号の地球帰還。長い宇宙の旅路を終え、オーストラリアの砂漠の中に落ちてきたのが、取材をした人が「よくぞ戻ってきてくれた」と愛しく思ったとか、大切な宇宙からの土産は、日本人の手に。

ある時、スーパーのレジで名前を呼ばれ顔を上げると、なんと数十年前に学生だった元教子さんのデググ君の笑顔。カンタス航空に入ったフライトアテンダントになり、ニューヨーク、パリと、世界中を飛び回っていたのに、コロナ騒ぎで人員削減される、スーパーマーケットでレジを打てるのは、これも仕事と、笑顔で仕事をしている姿には感心した。コロナ騒ぎで人生の予定が狂い、様々な事に立ち向かっていかなければならなくなった人達、又、医療関係者など苦しい仕事を続けている人達のために、世界が早く平常に戻ると祈る。

数年前の永野会長を代表とする広島日豪協会の方々のご訪問の際、リスモアでのパーベキュー歓迎会を手伝ってくれた留学生の稲葉君は、東京パラリンピックに東馬で日本代表に選ばれた。優勝候補としてスポーツ新聞や雑誌などを飾り、開催を願っているが、このコロナ騒ぎである。幸いにして、オーストラリアは厳しい移動制約存続のお陰で、現在は、ほとんどこの州が新規コロナ患者ゼロに近づいている。これからは気候も良くなり、「また日は昇る」。貧困孤児救済活動をしている小林りんさんの言葉「意思を持った楽観」で、皆が、心を引き締め、世界中へのコロナワクチンの普及により、今年が良い年になる事を期待したい。



コスハーバー 日豪協会のマーガレット会長様



元教子さんのデググ君